

平成24年度

鹿児島大学大学院保健学研究科
保健学専攻博士（後期）課程

学生募集要項

[一 般 選 拔]

[社 会 人 特 別 選 拔]

[外 国 人 留 学 生 特 別 選 拔]

鹿児島大学大学院保健学研究科

保健学研究科保健学専攻博士後期課程

〔教育理念〕

本課程は、保健学に関する科学的探求を培うことにより、高度な専門技術と深い知識を修得した質の高い教育・研究者並びに地域の保健・医療においてその管理・指導者となり、また鹿児島県に多い離島・へき地の保健・医療にも貢献できる有能な人材を育成することを教育理念としています。

〔アドミッション・ポリシー〕

- 1) 保健学領域での質の高い教育・研究者を目指す人
- 2) 高度な専門知識・技術を身につけた管理・指導者を目指す人
- 3) 地域等の保健医療施設で管理・指導者を目指す人

出願に係る個人情報保護について

個人情報保護に関しては、以下のとおり取り扱いますのでご了承ください。

1. 利用目的

出願にあたって提供された氏名、住所その他個人情報は、次に掲げる目的に利用いたします。

- (1) 入学者選抜、合格発表、入学手続きなど、入学までの一連の業務を行うため。
- (2) 入学後の学籍関係（学生証交付、各種学籍処理、証明書発行等）、修学関係（履修登録、学業成績等）及びそれらの連絡通知を行うため。
- (3) その他、本学の教育・研究、学生支援に必要な業務を行うため。

2. 第三者への個人情報の提供について

個人情報の第三者への提供は、次に掲げる場合に限ることにいたします。

- (1) 本学入学者について、名簿作成及び連絡通知等に使用するために本学の関連組織である学友会・同窓会等からの名前、所属に限り照合に応じる場合。
- (2) 法令に基づき公的機関等の要求に応じる場合や出願者本人及び第三者の生命・身体・財産の権利利益を保護するために必要な場合は、本人の同意を取ることなく、個人情報を提供する場合があります。
- (3) 法律で定められた適正な手続きにより情報開示を求められた場合。

入学試験に関する日程

区 分	1 次 募 集	2 次 募 集
募 集 人 員	6 人	若 干 人
出 願 資 格 審 査 受 付 期 間	平成23年 6月20日(月)～ 平成23年 6月23日(木)	平成23年11月21日(月)～ 平成23年11月25日(金)
願 書 受 付 期 間	平成23年 7月25日(月)～ 平成23年 8月 4日(木)	平成23年12月20日(火)～ 平成23年12月26日(月)
入 学 試 験 日	平成23年 9月22日(木)	平成24年 1月25日(水)
合 格 発 表 日	平成23年10月14日(金)	平成24年 2月 8日(水)
入 学 手 続 期 間	平成24年 2月27日(月)～平成24年 2月28日(火)	

保健学研究科では、入学定員に達しない場合は、追加募集を行うことがあります。
その際には保健学研究科のホームページでお知らせいたします。

HP <http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~gakumu/nyugaku/hokenenter.html>

目 次

1	募集人員（1次・2次）.....	1
2	出願資格	1
3	出願方法	1
	（1）一般選抜	
	（2）社会人特別選抜	
	（3）外国人留学生特別選抜	
4	出願書類等	2
5	出願資格審査（1次・2次）	3
6	出願手続（1次・2次）	4
7	選抜方法等（1次・2次）	5
8	出願及び受験にあたっての注意事項	6
9	合格者の発表（1次・2次）	6
10	入学手続	7
11	博士後期課程の修了要件及び学位の授与	7
12	大学院設置基準第14条による教育特例	7
13	障害を有する入学志願者の事前相談について	8
14	入試情報の開示	8

保健学専攻博士後期課程の概要

1	設置の趣旨	9
2	各分野の概要と特徴	9
3	教員の研究課題等	11

出願書類様式

試験場及び交通案内図

1 募集人員

専攻	分野	募集人員	
		1次募集	2次募集
保健学専攻	保健看護学分野 神経運動障害基礎学分野 臨床精神神経障害学分野	6人	若干人

募集人員には、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜の募集人員若干人を含む。

2 出願資格

修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成24年3月31日までに取得見込みの者
外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成24年3月31日までに授与される見込みの者

外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成24年3月31日までに授与される見込みの者

我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)

「大学を卒業し、または外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学・研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」

個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者で、24歳に達した者及び平成24年3月31日までに24歳に達する者
(注) 出願資格が上記、により出願を希望する者は、事前に出願資格審査を行いますので、あらかじめ学務課大学院係まで照会してください(3～4ページ参照)。

3 出願方法

入学者の選抜は、一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜により行いますので、下記の選抜方法を選択のうえ出願してください。

(1) 一般選抜

一般選抜に出願できる者は、上記「2 出願資格」のいずれかに該当する者とします。

(2) 社会人特別選抜

社会人特別選抜に出願できる者は、入学時までに医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において5年以上専門的な実務経験(通算可)を有する者で、上記「2 出願資格」の各号のいずれかに該当する者とします。

(3) 外国人留学生特別選抜

外国人留学生特別選抜に出願できる者は、外国の国籍を有し、日本における在留資格が本学の入学に支障がない者で、上記「2 出願資格」のいずれかに該当する者とします。

4 出願書類等

一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜に係る出願書類は、下記の「出願書類」のとおりとします。

なお、社会人特別選抜は、「出願書類」に併せて「出願書類」を提出してください。

(1) 出願書類①

提出書類等		摘 要
①	入学志願票	本要項添付の所定の用紙に記入すること
②	受験票・写真票	写真(縦4cm×横3cm、正面、上半身、無帽、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの)を各1枚貼付
③	修士課程修了(見込み)証明書	出身大学院(研究科)の長等が作成したもの 出願資格⑤、⑥の者は不要
④	成績証明書	出身大学院(研究科)の長等が作成し、厳封したもの 出願資格⑤、⑥の者は不要
⑤	学位授与証明書又は学位申請受理証明書	大学評価・学位授与機構が証明したもの 大学評価・学位授与機構において、修士の学位を得た者及び学位の授与を申請された者
⑥	修士論文等	修士論文の写し2部及びその論文要旨(和文の場合2000字程度、英文の場合800語程度、本要項所定の様式に合わせて記入)2部。出願資格⑤、⑥の者は不要 ※修士論文が未完成の者(24年3月修了予定者)は、修士における研究計画書を提出し、修士論文完成後に要旨と併せて提出すること(本学保健学研究科修了者は不要)。
⑦	研究業績調書	本要項所定の様式に記入すること
⑧	研究計画書	以下の事項を記入すること(合計1000字程度) 1. これまでの研究成果 2. 今後の研究計画
⑨	入学検定料	30,000円(国費外国人留学生は除く) 別紙所定様式により、郵便局の窓口(午前9時～午後4時)で、検定料30,000円を払い込み、受け取った「郵便振替払込受付証明書(お客さま用)」の受付局日付印欄の押印を確認のうえ、「検定料納付確認票」に貼付して提出すること。 また、既納の検定料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。 ①検定料を振込んだものの、出願しなかった場合(出願書類を提出しないまま受付期間が終了したり、書類不備等により出願書類が受理されなかった場合) ②誤って検定料を二重に振込んだ場合 なお、本学大学院修士課程、博士前期課程を修了し引き続き本研究科博士後期課程に進学する者からは検定料は徴収しない。
⑩	返信用封筒(受験票送付用)	本要項所定の封筒に、志願者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、切手(350円分)を貼付すること
⑪	宛名票(合格通知用)	本要項所定の用紙に、住所、氏名、郵便番号を明記すること
⑫	外国人登録原票記載事項証明書	外国人登録原票記載事項証明書(市区町村が発行したもの)を提出できない場合は旅券の写を提出すること(外国人留学生特別選抜志願者のみ)
⑬	出願資格審査合格通知書(写)	出願資格審査合格通知書の写 出願資格⑤、⑥の者のみ

(2) 出願書類② (社会人特別選抜志願者のみ提出)

⑭	就学承認書	本要項所定の用紙により、所属長が発行したもの
⑮	在職期間証明書	在職時の職名、勤務期間を所属機関の長が証明する書類で、入学時まで5年以上の実務経験を証明したもの(様式任意)

5 出願資格審査

本要項「2 出願資格」の、により出願を希望する者は、下記により出願資格の認定を受けてください。

(1) 提出書類

A 出願資格により出願しようとする者

入学試験出願資格認定申請書	本要項所定の用紙に記入すること
卒業証明書及び成績証明書	出身大学(学部)の長が作成し厳封したもの
研究期間証明書	研究に在籍した機関の長が証明したもの
研究業績調書	本要項所定の様式に記入すること 研究業績の主要論文2編の別刷またはコピー3部を添付すること。ただし、2編のうち少なくとも1編は筆頭著者の論文とする。なお、印刷中の論文は、受理証明書も併せて提出すること
自己推薦書	本要項所定の様式に記入すること
審査結果通知用返信封筒	長形3号の封筒に本人の住所、氏名、郵便番号を明記し切手(80円分)を貼付したもの

B 出願資格により出願しようとする者

本研究科の出願資格の認定基準は、次のとおりとします。

大学、短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程又は各種学校を修了し、または外国において学校教育における14年の課程を修了し、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において平成24年3月末までに5年以上の実務経験(大学を卒業した者は3年以上、通算可)があり学術論文、著書、学会発表等により本研究科博士前期課程修了者と同等以上の学力があると認められる者であること。

入学試験出願資格認定申請書	本要項所定の用紙に記入すること
卒業証明書及び成績証明書	最終出身学校長等が作成し厳封したもの
在職期間証明書	技術的・専門的職業についての職歴を有する者で、その期間及び職務内容を明記し、所属機関の長が作成したもので5年以上(大学を卒業した者は3年以上、通算可)の実務経験を証明したもの(様式任意)
研究業績調書	本要項所定の様式に記入すること 研究業績の主要論文2編の別刷またはコピー3部を添付すること。ただし、2編のうち少なくとも1編は筆頭著者の論文とする なお、印刷中の論文は、受理証明書も併せて提出すること
自己推薦書	本要項所定の様式に記入すること

出身学校の規定等	卒業要件(在学期間、授業科目、単位等)の記載されたもの及び卒業に必要な授業科目のシラバス等(授業内容が記載されたもの)
審査結果通知用返信封筒	長形3号の封筒に本人の住所、氏名、郵便番号を明記し切手(80円分)を貼付したもの

(2) 出願資格審査書類提出期間及び審査結果の通知

事 項	1 次 募 集	2 次 募 集
出願資格審査書類の提出期間	平成23年 6月20日(月)～ 平成23年 6月23日(木)17時迄	平成23年11月21日(月)～ 平成23年11月25日(金)17時迄
審査書類提出方法	封筒の表に「大学院出願資格審査書類在中」と朱書し、最終日の17時までに持参または書留・速達郵便により提出すること。	
審査書類提出先	〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1 TEL 099-275-5120 鹿児島大学医歯学総合研究科等学務課大学院係	
審査結果の通知	平成23年 7月14日(木)付け	平成23年12月15日(木)付け
	上記の日付けで申請者宛に郵便で通知するので、出願資格を認定された者は出願手続を行うこと。この場合、卒業証明書、成績証明書、研究業績調書及び在職期間証明書は、再提出する必要はない。	

6 出願手続

出願受付期間等

事 項	1 次 募 集	2 次 募 集
願 書 受 付 期 間	平成23年 7月25日(月)～ 平成23年 8月 4日(木)	平成23年12月20日(火) 平成23年12月26日(月)
出願書類提出方法	所定の封筒を使用して、持参または書留・速達郵便により出願すること。各募集最終日の17時までに必着すること。	
出 願 書 類 提 出 先	〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1 TEL 099-275-5120 鹿児島大学医歯学総合研究科等学務課大学院係 HP http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~gakumu/nyugaku/hokenenter.html E-mail gakumuh@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp	

注) 1次募集の出願受付期間に、2次募集の出願書類を提出しないこと。

7 選抜方法等

(1) 選抜方法

一般選抜

専門科目、英語、口述試験・面接及び学業成績の結果を総合評価し、合格者を決定します。

社会人特別選抜

書類審査、英語及び面接の結果を総合評価し、合格者を決定します。

外国人留学生特別選抜

書類審査、英語及び面接の結果を総合評価し、合格者を決定します。

(2) 学力試験日程等

試験科目等	各選抜の試験科目			1次募集試験日	2次募集試験日
	一般	社会人	外国人	平成23年 9月22日(木)	平成24年 1月25日(水)
口述試験・面接				9:30~	9:30~
面接					
英語				13:00~14:30	13:00~14:30
専門科目				15:00~16:00	15:00~16:00

英語の試験では、英和・和英辞典及び医学専門英語辞典の持ち込み可。ただし、電子辞書は不可。
2次募集の試験時間帯は、出願者数により変更することがある。この場合出願者に電話で連絡する。

(3) 専門科目

一般選抜出願者は、志望する分野の専門試験科目の中から1科目を選択受験すること。

専門分野	専門試験科目
保健看護学	精神保健看護学 地域健康看護学
神経運動障害基礎学	運動障害基礎学 運動障害学 神経障害基礎学
臨床精神神経障害学	認知リハビリテーション学 精神障害リハビリテーション学

(4) 評価内容

試験科目等	配点	評価内容
専門科目	50	志望する分野に関する能力を問う。(一般選抜のみ)
英語	100	保健学に関連する英語の文献を読解できる能力を問う。
口述試験・面接	50	提出された修士論文等について、知識、考え方等を問う。
面接	50	研究者又は専門性を有する職業人としての適性及び意欲を審査する。(社会人・外国人留学生特別選抜のみ)
書類審査	50	提出された書類について審査し評価する。(社会人・外国人留学生特別選抜のみ)

- (5) 試験会場
鹿児島大学桜ヶ丘共通教育棟
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1

8 出願及び受験にあたっての注意事項

- (1) 出願書類に不備がある場合、受理しないことがあります。
- (2) 出願に際しては、あらかじめ志望する分野の指導教員に照会のうえ出願してください。
(11ページの教員の研究課題等を参照のこと。)
- (3) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めません。ただし、連絡先に変更があった場合は、学務課大学院係まで届け出てください。また、一旦受理した出願書類等は返還しません。
- (4) 提出書類の記載事項が事実と相違していることが判明した場合は、入学許可を取り消すことがあります。
- (5) 入学を志願する者のうち、障害を有する者で受験上及び就学上特別の配慮を必要とする場合は、8ページの「13 障害を有する入学志願者の事前相談について」を参照し、出願期間前に学務課大学院係へ申し出てください。
- (6) 改姓等により卒業証明書等の氏名が異なっている場合は、戸籍抄本を提出してください。
- (7) 試験室及び注意事項等は、試験前日の13:00に桜ヶ丘共通教育棟玄関（末尾参照）に掲示します。ただし、試験室内へ立ち入ることはできません。
- (8) 受験者は、試験開始20分前までに集合してください。なお、各試験開始後30分以上遅刻した場合は受験できません。
- (9) 試験当日は、必ず受験票を持参し係員に提示してください。受験票を紛失・忘れた者は、試験場本部に申し出てください。
試験場内での携帯電話等の使用は禁止します。これらを試験場内に持ち込む場合は、あらかじめ電源を切ってかばん等に入れてください。
机の上に置けるものは、黒鉛筆、シャープペンシル(黒)、消しゴム、鉛筆削り、時計(計時機能だけのもの)、辞書(英語の試験のみ：英和・和英辞典及び医学専門英和辞典は可、電子辞書は不可)です。その他のものは、指定の場所においてください。
- (10) 受験票は、受付期間終了後に出願者に送付します。試験日の10日前までに到着しないときは、出願書類提出先に電話等で照会してください。
なお、郵送による照会は返信用封筒(郵便番号、住所、氏名を明記のうえ80円切手を貼付)を同封してください。

9 合格者の発表

1次募集合格発表日	2次募集合格発表日
平成23年10月14日(金) 10時	平成24年 2月 8日(水) 10時
桜ヶ丘共通教育棟玄関に受験番号を掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送する。なお、電話、その他による個別の照会には応じない。	

10 入学手続

合格者は、入学手続期間内に直接来学のうえ入学手続を行ってください。なお、入学手続の詳細については、後日送付します。

(1) 入学手続期間 平成24年 2月27日(月)～平成24年 2月28日(火)

(受付時間9時から17時まで、時間を厳守願います。)

入学手続期間内に入学の手続を行わなかった者は、入学を辞退したものと取り扱いますので留意願います。

(2) 提出書類 本学所定の書類を平成24年2月中旬に送付します。

(3) 納付金 (平成23年度実績)

① 入学料 282,000円

② 授業料 (前期分) 267,900円

(年 額) 535,800円

(注) ア 在学中に授業料の改定が行われた場合、改定時から新授業料が適用されます。

イ 授業料の納付に関する詳細は、平成24年2月中旬に送付する入学手続書類でお知らせします。

ウ 入学手続完了者が入学を辞退した場合、既納の入学料は返還できません。

エ 入学料、授業料については徴収猶予及び免除の制度があります。

詳細は、鹿児島大学学生部学生生活課経済支援係 (電話099-285-7033) まで問い合わせてください。

(4) 入学手続場所 鹿児島大学医歯学総合研究科等学務課大学院係

11 博士後期課程の修了要件及び学位の授与

(1) 修了要件

本課程に3年以上在学し、所定の単位を12単位以上を修得し、必要な研究指導を受けて学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとしています。ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間が短縮されることがあります。

(2) 学位の授与

本課程を修了した者には、本学学位規則の定めるところにより、博士(保健学)の学位を授与します。

12 大学院設置基準第14条による教育特例

社会人入学者の大学院での学修を容易とするために、大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づく昼夜開講制による教育を実施しています。

昼夜開講制の授業時間帯は、昼間(9:00～17:50, 5時限まで)、夜間(18:00～21:10, 6・7時限)です。また、必要に応じて土曜日、日曜日及び祝日等に集中講義や研究指導を行うことがあります。なお、一般選抜入学者についても夜間等の授業時間帯の履修が必要な学生には、履修を認めています。

13 障害を有する入学志願者の事前相談について

本研究科に入学を志願する者で、障害(次表参照)がある場合は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、あらかじめ下記の照会先へ相談してください。

区 分	障 害 の 程 度
視 覚 障 害 者	両眼の視力がおおむね0.3未満又は視力以外の障害が高度なもので、拡大鏡等を使用しても文字等を認識することが不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害 者	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもので、補聴器等を使用しても通常の話声を理解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢 体 不 自 由 者	1. 肢体不自由の状態が、補装具を使用しても歩行等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 前号の程度未満で、常時の医学的な観察指導を必要とする程度のもの
病 弱 者 (身体虚弱者を含む。)	1. 疾患の状態(慢性の呼吸器系疾患等)が、継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が、継続して生活規制を必要とする程度のもの

(注) 学校教育法施行令第22条の3の規定に準拠した。

(1) 時期

相談の内容によっては、本研究科の入学者選抜試験までに対応できず、特別措置が講じられないこともありますので、なるべく出願期間の数日前までに相談してください。

(2) 方法

電話での相談又は本研究科での相談いずれでもかまいませんが、場合によっては下記事項を記載した書類(様式任意)を提出していただく場合があります。

志願する研究科の分野名、氏名、生年月日

障害の種類、程度(医師の診断書が必要な場合があります。)

受験の際、特別な配慮を希望する事項及び内容

大学等在学中にとられていた特別措置

日常生活の状況

本人の現住所及び連絡先電話番号

(3) 照会先

鹿児島大学医歯学総合研究科等学務課大学院係

電話 099-275-5120

FAX 099-275-5136

14 入試情報の開示

入試成績に関する個人情報には次により学務課で開示します。

受験者本人からの請求に基づき、各試験科目の得点、面接等の評価、合否の別を書面により開示します。

入試成績の開示は、当該年度の入試に限り開示し開示期間は合格発表後2か月間とします。遠隔地等の理由により、来学が困難な場合は学務課に問い合わせてください。

鹿児島大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程の概要

1 設置の趣旨

保健学は人間を対象とし、保健・医療・福祉などに関する科学的探求と確かな技術の修得と創造を目的とした学問である（大学基準協会編「保健学系教育に関する基準」、平成14年）。

ところで、我が国では社会構造の複雑化・グローバル化と急速な科学の進歩に伴い、医療・医学においても高度専門化・細分化が進んでいる。また、急速な高齢社会の到来や少子化現象も見られ、国民の健康観・疾病観・障害観も大きく変容しつつある。

さらに、少子高齢化、医療の高度化や在宅医療の進展、介護・福祉分野の充実等、医療をとりまく社会情勢の変化により、人々の意識は、思いやりと倫理感のあふれる医療、リスクマネジメントを求めようようになってきており、医療従事者の養成に対する社会の期待は大きく、確かな専門性に加え、豊かな人間性や高い倫理観を備えた人材の養成が求められている。

このように複雑多様化する21世紀の保健・医療の現場においては、看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士等の医療専門職の深い知識と高度な技術が求められ、また、これら医療専門職の相互理解とチーム医療の発展が切望されている。

鹿児島大学（以下、本学）大学院保健学研究科保健学専攻博士（後期）課程においては、既設の保健学科及び保健学研究科保健学専攻博士（前期）課程における教育・研究の基盤の上に、保健学に関する知識を一層深め、技術をより高める教育を行い、独創的な研究を進めることにより、高度な専門性と倫理観を身につけた教育・研究者及び管理・指導者を養成する。

2 各分野の概要と特徴

保健学専攻博士（後期）課程では、次の3つの分野に焦点を当てた教育・研究を行う。

(1) 保健看護学分野の概要と特徴

保健看護学分野では、精神保健看護学と地域健康看護学に関する教育・研究を行う。

精神保健看護学では、医療機関や社会復帰施設、地域で生活している対象者(妊娠女性も含む)の健康的な生活の回復・維持・増進を図るための看護とケアの実践・開発に関する教育・研究を行う。特に、精神看護が必要な現場においては、対象者の日常生活援助・ソーシャルサポートを通してストレスへの適応を促進し、よりよい健康状態へと移行できるような支援の仕方を研究・実践できる高度な看護専門職者の養成を目指す。

地域健康看護学では、まず、根拠に基づく科学的な看護実践や看護実践において必要とされる看護技術論、看護方法論の開発を目指した教育研究を行う。また、近年の社会の急激な変化に伴い疾病構造の変化がみられ、慢性疾患の増加により病を抱えつつもそれらをコントロールしながら、あるいは残存機能を最大限に活用しながら、より健康的な状態を目指すことが必要になってきている。その中で口腔・咽頭機能の障害により生じる摂食障害について、病態・解剖・生理学的側面から探求し、残存機能を最大限に発揮させるための看護技術や方法論を開発・実践できる看護者の養成を目指す。また、小児の発達と健康問題及びヘルスサービスの顧客の満足度や職務満足度に焦点を当てた教育・研究を行う。

さらに、現代の保健・医療の進歩に重要な看護情報学の発達にともなう技術を積極的に導入活用し、健康の維持・増進のための支援が不足しがちな離島・へき地を含む地域の人々のニーズに応えられるようなIT利用によるネットワークの構築を研究・開発できる教育・研究者を養成する。また、リスクマネジメントや患者満足度も含めた医療・看護の質の向上と効率化を、evidenceに基づき実施可能にする看護管理学の教育・研究者を養成する。

(2) 神経運動障害基礎学分野の概要と特徴

神経運動障害基礎学分野では、運動障害基礎学と運動障害学及び神経障害基礎学に関する教育・研究を行う。

運動障害基礎学では、理学療法の対象となる運動障害の原因疾患の中で、特に筋肉、骨、関節等の運動器疾患及び骨・軟部腫瘍、並びに呼吸循環代謝疾患について、病理学的あるいは生理学的にその病態及び発生機序並びに生体の機能・能力への影響について教育・研究する。さらに、この研究から運動障害に対する病理学的思考を理学療法の領域で役立てると共に、呼吸循環代謝機能の理学療法における評価・解析法についても研究する。

運動障害学では、人の運動障害に関する教育・研究を行う。運動障害の構造は、〈1〉神経の機能・筋力・関節の構造、〈2〉各関節の運動、〈3〉全身の動作、と階層構造になっている。骨・関節疾患、神経・筋疾患などが原因で運動が障害された人のデータを踏まえた臨床運動学的解析や予後予測、運動療法に関する研究方法を教授する。さらに、運動障害における統計学的に分析された結果の臨床への適用についても教授する。

神経障害基礎学では神経障害の修復、障害からの回復という観点に立って神経障害の病態生理学的メカニズムと再生医学を、基礎的立場から研究を教授すると共に、研究者、指導者を養成することを目的とする。中枢・末梢神経の障害発生の抑制と障害からの回復を病態生理学的に解明していくには、培養神経系細胞と障害動物モデルでの実験的研究がなされていてサイトカインを含めた障害の病態生理が明らかとなつている。また最近は、再生医学の研究が隆盛を極めつつある。神経組織には神経回路網の構築が必要であり、それにはリハビリテーションや種々の学習が必須であるのでこれらの教育・研究を進める。

(3) 臨床精神神経障害学分野の概要と特徴

臨床精神神経障害学分野は、認知リハビリテーション学及び精神障害リハビリテーション学に関する教育・研究を行う。

認知リハビリテーション学は、ニューロサイエンスの中では比較的新しい学問の領域であり、その対象は近年漸次拡大し、また神経心理学をはじめとする関連領域との連携をますます深めつつある。そこで、認知リハビリテーション学では、脳血管障害や頭部外傷、痴呆（認知症）などの脳損傷によって生じた高次脳機能（認知）障害とそれから発生する種々の動作および応用動作能力または社会的適応能力の回復を図るための基盤的・先端的な作業療法的および神経心理学的分析とそのアプローチ方法を教授する。そしてそのような認知障害の脳神経のメカニズムの分析や新たな認知リハビリテーションの実践方法の開発を目的とする研究者・指導者を養成する。

精神障害リハビリテーション学では、鹿児島県における人口に対する精神科の病床数が全国平均の約2倍で在院日数もきわめて長いことを踏まえて、機能的なリハビリテーションを実施するために精神医学的、臨床心理学的および作業療法的観点から総合的な教育研究を行う。特に、精神障害者のリハビリテーションにおける抗精神病薬を中心とした薬物療法、認知と動作の関係に着目したリハビリテーション技法やライフステージを考慮した社会生活支援及び精神障害者リハビリテーションシステムについて教育・研究を行う。

3. 教員の研究課題等

連絡先 市外局番：099 - , E-mail address - @以下に health.nop.kagoshima-u.ac.jp

所属分野	職名	氏名 (連絡先)	担当授業科目	研究課題
保健看護学分野	教授	堤 由美子 TEL・FAX 275-6757 E-mail y-tsutumi@	精神保健看護学特論 精神保健看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.がん患者の心理と看護の研究 2.心の病いを有する患者への看護 3.援助関係の技術に関する研究
	教授	波多野 浩道 TEL・FAX 275-6793 E-mail hatano@	地域健康看護学特論 地域健康看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.ヘルスサービス利用研究 2.保健行動モデルの研究 3.離島保健医療システムの研究 4.医療の質評価研究
	教授	緒方 重光 TEL・FAX 275-6758 E-mail sea-ogata@	地域健康看護学特論 地域健康看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.口腔形態機能に関する研究 2.咀嚼筋と口腔リハビリテーションに関する研究 3.緩和ケアに関する研究
	教授	丹羽 さよ子 TEL・FAX 275-6751 E-mail n-sayo@	精神保健看護学特論 精神保健看護学特別演習	1.老年看護に関する研究 2.ソーシャルサポートに関する研究 3.リハビリテーション看護に関する研究
	教授	吉留 厚子 TEL・FAX 275-6790 E-mail yosidome@	母性・小児保健看護学特論 母性・小児保健看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.望まない妊娠を防止する研究 2.育児支援に関する研究 3.母乳哺育に関する研究 4.更年期女性の援助に関する研究
	教授	八代 利香 TEL・FAX 275-6755 E-mail yatsu-r@	地域健康看護学特論 地域健康看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.看護の人的資源に関する国際的研究 2.医療の安全と患者の権利に関する研究 3.国際看護教育に関する研究
	教授	吉田 愛知 TEL・FAX 275-6767 E-mail aichi-y@	成人健康科学特論 地域健康看護学特論 地域健康看護学特別演習	1.乳腺疾患の病理組織及び超微形態に関する研究 2.心疾患の病理学的研究 3.肝疾患の病理学的研究
	教授	藤野 敏則 TEL・FAX 275-6752 E-mail toshinet@	成人健康科学特論 母性・小児保健看護学特論 母性・小児保健看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.流産・習慣流産の診療・研究並びに同疾患を持つ患者のケア 2.産婦人科疾患患者の QOL 3.子宮頸がんの集団検診
	教授	武井 修治 TEL・FAX 275-6750 E-mail syuji@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp	成人健康科学特論 母性・小児保健看護学特論 母性・小児保健看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.小児リウマチ膠原病の診断治療 2.小児慢性難治性疾患の患児・家族支援 3.小児慢性疾患のキャリアオーバー 4.専門医療過疎疾患に対する医療のあり方
	教授	木佐貫 彰 TEL 275-6766 FAX 275-6748 E-mail akira-k@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp	成人健康科学特論 地域健康看護学特論 地域健康看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.循環器心疾患の診断・治療・予後・看護の評価 2.心臓超音波医学
教授	新地 洋之 TEL・FAX 275-6756 E-mail shinchi@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp	成人健康科学特論 地域健康看護学特論 地域健康看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.消化器がんに対する集学治療 2.がん患者に対するオーダーメイド治療の構築 3.高齢者に対するがん治療 4.補完代替医療の延命効果 5.緩和的がん治療の有効性	

保健看護学分野	教授	松成裕子 TEL・FAX 275-6745 E-mail matsuy@	地域健康看護学特論 地域健康看護学特別演習 保健看護学特別研究	1.人材育成・キャリア開発に関する研究 2.災害時のシステム管理に関する研究 3.看護技術の実証的研究 4.健康管理行動に関わる調査研究
	准教授	下敷領 須美子 TEL・FAX 275-6791 E-mail sumiko@	母性・小児保健看護学特別演習	1.妊娠・出産・子育て期の女性と家族への健康支援に関する研究

連絡先 市外局番：099 - , E-mail address - @以下に health.nop.kagoshima-u.ac.jp

所属分野	職名	氏名 (連絡先)	担当授業科目	研究課題
神経運動障害基礎学分野	教授	米 和 徳 TEL 275-6771 FAX 275-6804 E-mail kazunori@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp	運動障害基礎学特論 運動障害基礎学特別演習 神経運動障害基礎学特別研究	1. 脊髄変性機序の解明に関する研究 2. 脊髄の変性防止と再生に関する研究 3. 運動器の老化に関する研究
	教授	前田 哲 男 TEL 275-6775 FAX 275-6804 E-mail maeda@	運動障害学特論 運動障害学特別演習 神経運動障害基礎学特別研究	1. 運動学や臨床運動学に関する研究 2. 運動療法に関する研究 3. 特に筋力や動作の力学的解析が関係する研究
	教授	吉 元 洋 一 TEL 275-6774 FAX 275-6804 E-mail yosimoto@	運動障害学特論 運動障害学特別演習 神経運動障害基礎学特別研究	1. 地域リハビリテーションに関する研究 2. 高齢者の体力に関する研究 3. 筋の硬度（弾性）に関する研究
	教授	吉 田 義 弘 TEL 275-6770 FAX 275-6804 E-mail yoshiday@	神経障害基礎学特論 神経障害基礎学特別演習 神経運動障害基礎学特別研究	1. 神経障害動物モデルを使った障害メカニズムに関する研究 2. 神経障害動物モデルを用いた運動療法の効果の研究 3. 生理活性物質(成長因子)と神経障害に関する研究 4. HAM/TSP に関する研究
	准教授	大 重 匡 TEL 275-6773 FAX 275-6804 E-mail ohshige@	運動障害基礎学特論 運動障害基礎学特別演習 神経運動障害基礎学特別研究	1. 呼吸器疾患の理学療法に関する研究 2. 循環器疾患の理学療法に関する研究 3. 温熱療法に関する研究 4. 動作分析に関する研究
	准教授	榊 間 春 利 TEL 275-6778 E-mail sakaki@	神経障害基礎学特論 神経障害基礎学特別演習 神経障害基礎学特別研究	1. 神経障害に対する理学療法介入の基礎的研究 2. 骨格筋障害に対する理学療法介入の基礎的研究 3. 神経・骨格筋障害の理学療法に関する臨床研究

連絡先 市外局番：099 - , E-mail address - @以下に health.nop.kagoshima-u.ac.jp

所属分野	職名	氏名 (連絡先)	担当授業科目	研究課題
臨床精神神経障害学分野	教授	岩瀬 義昭 TEL 275-6782 FAX 275-6786 E-mail iwase@	認知リハビリテーション学特論 認知リハビリテーション学特別演習 臨床精神神経障害学特別研究	1. 認知動作分析に関する研究 2. 作業遂行と認知に関する研究 3. 認知障害者地域在宅リハビリテーション
	教授	築瀬 誠 TEL・FAX 275-6785 E-mail yanase@	精神障害リハビリテーション学特論 精神障害リハビリテーション学特別演習 臨床精神神経障害学特別研究	1. 精神障害者に対する作業療法技法と効果判定に関する研究 2. 精神障害者のリハビリテーションに関する研究 3. 精神障害者の家族支援に関する研究
	教授	深野 佳和 TEL・FAX 275-6745 E-mail fukano@	精神障害リハビリテーション学特論 精神障害リハビリテーション学特別演習 臨床精神神経障害学特別研究	1. 認知 - 動作プロセスの発達と障害に関する研究 2. イメージ発現・操作の発達と障害に関する研究 3. 動作コントロールに関する研究
	講師	窪田 正大 TEL・FAX 275-6807 E-mail kubota@	認知リハビリテーション学特論 認知リハビリテーション学特別演習	1. 脳血管障害に対する認知リハビリテーションに関する研究 2. 高次神経障害作業療法に関する臨床研究